海外レポート	**台湾　台北**

「台湾、旧正月前で活気づく今どきイベント」

歐　元韻

　このレポートを執筆中の台湾では旧正月が明けたばかりで、各地商店街やビジネス街では多くの人たちが商売やビジネスでの無事、安泰を神様に祈願する、通称「拝拝(パイ・パイ)」と呼ばれる儀式が執り行われています。中華圏に暮らす台湾の人たちにとっては、やはり昔からの習わしである旧正月こそが日本でいうところのお正月であり、台湾のあちらこちらで「バン、バン、バン」と耳の鼓膜を突き破らんばかりのけたたましい爆竹音が仕事始めの景気づけとして鳴り響いています。

＜旧正月を前に活気づく台北建国花市＞

　台湾では旧正月を大変重要視していることは既に紹介しましたが、日本がお正月を迎えるにあたり門松やしめ縄飾りを用意するように、ここ台湾でも金運や縁起が良いとされる胡蝶蘭、鳳梨花（パイン花）、開運竹（ミリオンバンブー）、百合の花などを各家庭で飾る人たちが少なくありません。なかでも華麗で高貴な牡丹の花は富と裕福を表す象徴として人気を誇っています。今年の旧正月前には、台北市の中心地に古くからある伝統花市場として有名な「台北建国花市」内に島根県産牡丹の紹介展示コーナーと販売所が設けられ、訪れた多くの人々が豊かで大輪の花を咲かした姿に見入っていました。私が現場を訪れた際には旧正月前ということも関係しているのかいくつもの花が既に売約済みとなっており、その人気ぶりに改めて感心させられました。聞いてみると、島根県から苗木を台湾に輸出し、台湾の生産業者がその栽培にあたっている品種もあるとのコメントでした。ご存知の方も多いと思いますが、実は台湾は生花業も盛んで、昨今話題のスマート農業技術の導入や、生産地と市場を結ぶ間の低温梱包、冷蔵運輸といった運送システムの整備も進み、今後の展開が以前にも増して注目されている分野でもあります。

＜2024 第 12 回台北国際動漫フェスティバル＞

　旧正月のもう一つの大イベントは「台北国際動漫フェスティバル」でした。日本のアニメ・コミック市場の盛況ぶりは、今や世界各地にオタク文化としてその影響を及ぼすまでに発展してきていますが、ここ台湾でも当然のごとく、日本同様に活発な熱い動きが繰り広げられています。その代表的イベントの一つに位置付けられているのが、今回紹介する「台北国際動漫フェスティバル」です。

　この展示会は基本的にはアニメ、コミック並びにゲームソフトなどを中心としたオタク文化に関連した商品の展示会であり、情報発信の場としても業界の内外から注目を集める一大イベントへと成長しています。今年は旧正月前の２月１日から５日間の日程で開催され、初日は約 10.5 万人もの来場者が会場を訪れました。５日間の総来場者数は 48 万人に達したと発表されています。また開催期間中の関連商品の売上額は 2.5 億元（日本円約 12 億円弱に相当）で過去最高額を記録したとのことでした。ちなみに広島県の福山市でも昨年は広島エリア最大級のアニメイベント「フクヤマアニメ THE ROCK６」が開催されたと聞いています。このイベントで、テレビアニメ「境界戦機」は物語の舞台に福山市が設定されていると紹介され、一足飛びでのビジネスへの発展は難しいかもしれませんが、このことを一つのきっかけとし、広島と台湾におけるオタク文化の交流、発展がスタートできるのではと勝手な想像を巡らせています。「境界戦機」は 2021 年に台湾電信業界最大手である中華電信（前身は国の交通部電信局運営部門）グループ内企業が放映に携わったようです。

　今回の台湾の会場では日本の有名アニメ作品の声優、作者を招いての来場者とのサイン会や、日本館コーナーではアニメ作品の舞台となった岩手県大槌町が観光 PR 用ブースを設置されていました。広島県としても、アニメ作品の舞台となっている福山市、尾道市、呉市、竹原市が共同ブースを設置できないか、「境界戦機」の羽原信義監督（福山市出身）のトークショーやプラモデル・フィギュアを絡めた企画も実現可能なのではなどと想像しつつ来場者で溢れかえる展示会場を駆け巡りながら、楽しい一時を過ごさせていただきました。

【フェスティバル会場の様子】